

国土交通省

移住等の促進に向けた実証調査 成果報告

シビック・イノベーション拠点スナバのコミュニティ・ゲートウェイ機能の 体系化のための実証調査

ミテモ株式会社、塩尻市、塩尻市振興公社

2025/2/25



ミテモは
インソースグループです

本日のメンバー



ミテモ株式会社
シニアプロデューサー

名古屋工業大学
客員准教授
横浜国立大学
IMS客員准教授

三井実



一般財団法人
塩尻市振興公社
地域振興事業部
事業部長
(塩尻市から出向)

株式会社たのめ企画
共同創業者

三枝大祐



塩尻市
商工観光部
先端産業振興室
主事

Ai Yamada Dance Studio
主宰

山田愛

塩尻市の特徴

- ・日本のほぼ真ん中で、日本海と太平洋をつなぐ交通の要所 東京から2時間、名古屋から2時間
- ・人口 65,317人（2024年11月）。2005年をピークに人口減少と高齢化が加速
- ・6000人規模のセイコーエプソン株式会社の拠点の影響で毎年100-200人の社会増要因にはなっているものの、着実に人口減少・生産年齢人口の減少による地域の担い手不足が進んでいる
- ・主要な産業としては、レタスやブドウなどの農業が盛んで、特にブドウはワイン醸造に活かされ地域の特産品、木曾漆器などの伝統工芸や、精密機器の製造業も市の重要な産業



写真出典：塩尻市観光協会



ビジョン

生きたいまちを、共に創る

このまちで生活するさまざまな人。
職種や肩書き、年代、性別が異なっても、
誰もがこの地域を構成する市民です。

生活する中で感じた等身大の違和感や課題。
それから欲求は他の誰でもなく自分たちの手でなんとかできる。
一人ひとりが実行したアクションが生きたいまちへとつながっていく。
多様な主体が、垣根を超えてつながり、
「生きたいまち」をつくりだす。

名前の由来は公園の砂場から

ワクワク、楽しい予感がして
誰でもいつでもいくことができる。
行けば誰かがいて一緒につくることができる。
つくったり、壊したり、何度でも挑戦できる。
そんな、公園の砂場のような場所がわたしたちがつくる「スナバ」です。

ミッション

スナバは
「シビック・イノベーションの中心地」として、
シビック・イノベーターを増やす環境を創ります

市民の、市民による、市民のためのイノベーションを
私たちは「シビック・イノベーション」と名づけます。
課題も欲求も自分ごとで考え、行動を起こす、
「シビック・イノベーター」を増やし、
一人ひとりが生きたいまちをつくるためのムーブメントを
スナバから生み出していきます。

スナバを通じた移住等実績

- スナバをベースに活動を行う地域おこし協力隊13名の定着率は100%を達成
- 長野県の移住・二拠点居住支援施策「おためしナガノ」においても、過去5年15名のうち7名が継続

	2018年度末	2019年度末	2020年度末	2021年度末	2022年度末	2023年度末
現役メンバー数	22	44	62	85	114	134
のベメンバー数	26	63	109	180	218	281
新規事業数 (のベ)	3	9	19	28	33	37
移住者数 (のベ)	5	10	19	38	57	64
住民税 増価額(のベ)	720千円	1,510千円	2,888千円	5,700千円	8,550千円	9,600千円
地域内消費 増価額(のベ)	6,250千円	12,500千円	23,750千円	47,500千円	71,250千円	80,000千円
予算額	26,815千円	29,586千円	20,737千円	20,329千円	23,333千円	34,026千円
ROI (投資収益率)	25.99%	24.84%	34.53%	54.58%	66.06%	57.87%

本実証事業の目的：スナバの謎を解く

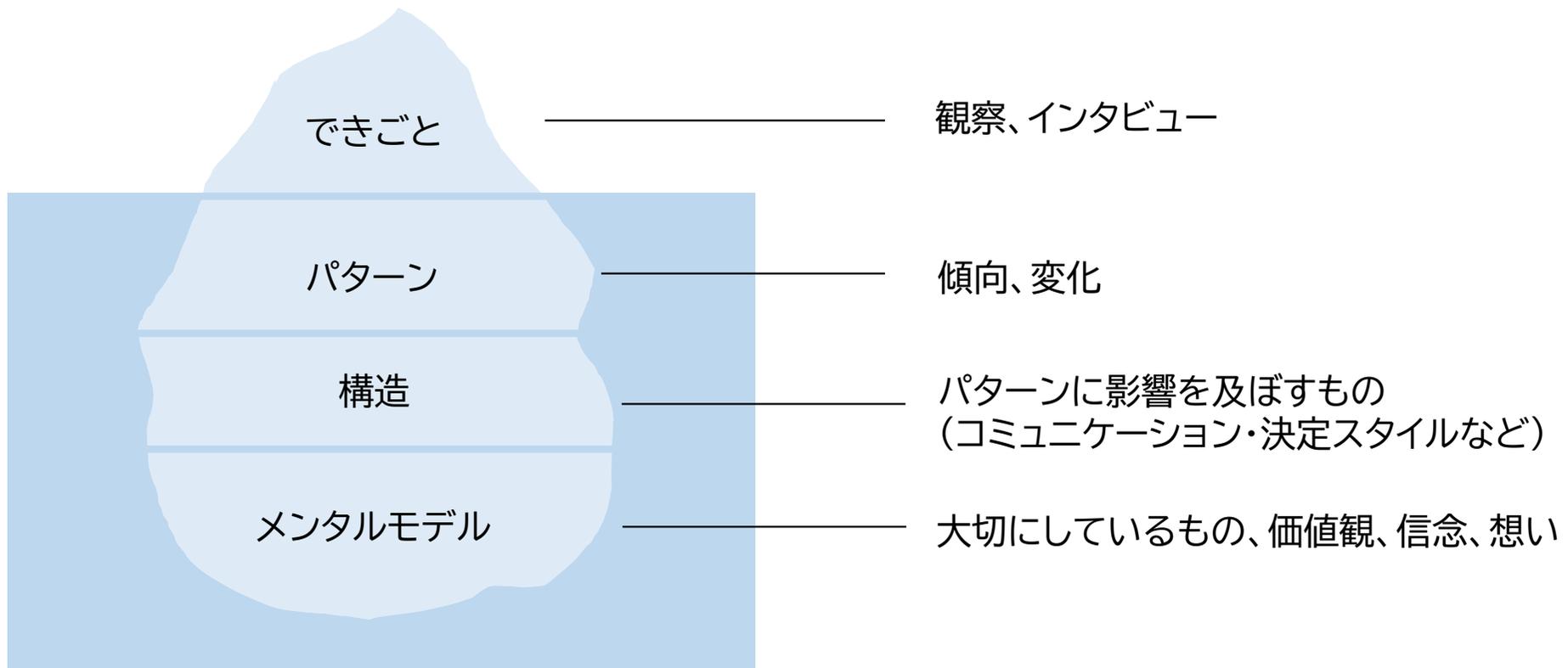
【仮説】

スナバがコミュニティ・ゲートウェイとして機能し、
移住希望者の住まい・なりわい・コミュニティの獲得に寄与している

【調査項目】

- 1 スナバを通じて移住/ニ地域居住に至るステップ
- 2 スナバが生み出すなりわいの実態
- 3 スナバを介した地域コミュニティとの接点

コミュニティ・ゲートウェイ機能から生じるできごとから、スナバを深く理解していく



実証調査の様子

ヒアリング



中間ワークショップ



フィールドワーク



ステークホルダー調査



歴史を掘り起こすスナバ年表会



調査結果ワークショップ



調査仕様

移住者・二拠点居住者、スナバ運営、地域ステークホルダーを中心にのべ99名を調査

日程	対象	方法	概要/人数
9月	二拠点居住者	インタビュー	1名
9-11月	移住定住者	インタビュー	4名
10月	お試し移住(おためしナガノ)	インタビュー	3名
10月	スナバ運営	観察	スナバスタッフ定例会(3回分) 参加者名8
10-11月	スナバ運営	インタビュー	6名
11月	スナバ運営・メンバー	ワークショップ *これまでの分析による仮説の確認と深掘り	参加者13名
9-10月	塩尻市役所	インタビュー	2部署4名
10-11月	地域ステークホルダー	フィールドワーク 観察/インタビュー	15名 <訪問地域> 大門、奈良井、木曾平沢、洗馬、北小野、広丘
10月	地域ステークホルダー	イベント参加 *大門三番町居酒屋 @大門三番町公民館	地域住民・移住者 17名
10月	二地域居住者住まい施設(en.to) *ギフトショップを移住者で改修したシェアハウス	観察/インタビュー	合同経営者 1名
12-1月	・地域ステークホルダー、 ・住まい関係会社(しおじり街元気カンパニー) ・塩尻市役所 ・塩尻市商工会議所	インタビュー	1名 北小野在住 2名 住まい関連会社 1名 市役所 1名 商工会議所
2月	最終報告ワークショップ	ワークショップ	22名 (メンバー12名、市役所4名、スナバ運営6名)

実証調査結果



【調査項目】

- 1 スナバを通じて移住/二地域居住に至るステップ
- 2 スナバが生み出すなりわいの実態
- 3 スナバを介した地域コミュニティとの接点

1 スナバを通じて移住/二地域居住に至るステップ

スナバを利用する移住者のジャーニーと、それに対するスナバ運営の機能や介入の仕方の特徴を分析、移住者等の思いやナレッジを地域で活かし、個人個人のシビックイノベーターマインドを深化させながらなりわいを生み出し、スナバを通じた移住/二地域居住に至る4つのステップが見られた。

	スナバと接点をもつ	スナバで鍛える	スナバで構想する	なりわいを生み出す
移住者のフェーズとアクティビティ	<ul style="list-style-type: none"> 各方面からスナバと接点をもつ(地域おこし協力隊/おためしながの/紹介/プログラムなど) <p>① スナバの特徴を踏まえて、<u>スナバビジョンに共感</u>できるかを問われる</p>	<p>② あなたは何者なのか？ <u>WHY</u>を問われる</p> <p>② スナバでのつづやきがきっかけで次につながる</p> <p>② 行き詰まると声かけられる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <u>仲間との日常的な壁打ち</u>により引き出しあう <p>③ <u>自分主語のなりわいを構想</u></p> <ul style="list-style-type: none"> メンバーを手伝いつつ自分主導プロジェクトを企画する 	<p>④ 何かが生まれると信じている高い自己効力感が場にある<u>やってみよう</u>と一歩が踏み出せる、踏み出させられる</p> <p>④ スナバを中心とした人材マーケットでチームで実現</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>なりわいが地域コミュニティとの接点となり定着</u>へ
スナバの機能と役割	<ul style="list-style-type: none"> <u>互いに選び、選ばれる入会プロセス</u> <u>何者かを問うオンボーディング</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 新メンバーのお披露目「プラグイベント」 <u>オープンでフラットな伴走支援</u> <u>バイネームでのイベント告知</u> <u>日常モニタリングシェア</u> <u>人が集まるブレイクキッチン</u> 	<ul style="list-style-type: none"> <u>シビックイノベーター支援プログラム(SBB/N1道場/DIVE)</u> 	
スナバの介入の仕方や特徴	① <u>スナバミッションに紐づく、入会プロセスの中で、選び、選ばれる</u>	② <u>自らがやりたいことは何なのかを問われ、一歩でも前に進める伴走</u>	③ <u>一人一人の実現したいアクションを、スナバの仲間をつなげながら引き出す</u>	④ <u>一歩目を踏み出せる環境、仲間をつくる、運営もメンバーもなくなるともにつくる</u>

● 二拠点居住・移住定着へ

2 スナバが生み出すなりわいの実態

スナバビジョン「生きたいまちを、共に創る」のように、一人一人の課題や、欲求などを解決する事業であり、単なる経済的利益を求めたものではない、生活の質の向上や地域の課題を解決するような、多様なプロジェクトや事業が40以上生まれている

プロジェクト名	概要
アイマニ SHIOJIRI 	塩尻駅構内(東口階段の間)にあるカフェ&ワインバー。塩尻ワインを身近に楽しめる店で、ワインに合うジビエ料理やスイーツ、地元の食材を活かしたメニューを提供している。元スナバスタッフが代表を務める。
株式会社 ハタケホットケ 	有機・自然農をより身近にする農業ベンチャー企業。スマート農業機器の開発を通じて、農作業の省力化と生産性向上を目指している。スナバのアクセラレータプログラム「スナバビジネスモデルブートキャンプ」を起点とした事業。
地域の人事部 	NPO法人MEGURUが運営する事業の一つで、地域の企業や事業者の人材採用・組織づくりを支援する取り組み。塩尻市を中心に、地域の企業が抱える人材不足や採用課題に対して、単なる求人マッチングではなく、中長期的な組織づくりや人材育成をサポートするのが特徴。
大門マルシェ 	長野県塩尻市の大門商店街で開催されているイベント。開始当初は7店舗での開催だったが、今では70店舗前後の出展申し込みがある。2025年2月時点で24回実施しており、地域に根付いたイベントとして定着している。
ナイアガラ ホップ 	スナバスタッフが共同代表を務めるため企画が企画・販売を手掛ける塩尻市特産のブドウ品種ナイアガラを活かしたクラフトビール。2024年「ジャパン・グレートビア・アワーズ」金賞受賞。
LOCAL NIGHT PICNIC 	Uターン者であるスナバメンバーが発起人となり塩尻市内で開催されるイベント。フード、マーケットや、様々なアクティビティが楽しめるほか、音楽ライブも行われる。イベントフィナーレは「空飛ぶランタン」が打上られる。地元小中学校、福祉施設、企業と連携した地域を巻き込んだイベント。
ソトイク・ プロジェクト 	スナバメンバーを中心に活動する市民団体。まちと育児をつなぎ、みんなで子育てをする「共同育児=ソトイク」が根付く地域や社会を目指し、実践的な活動を行っている。

3 スナバを介した地域コミュニティとの接点

スナバが地域接点作りにどう寄与しているのか？

【当初仮説】

スナバには「組織的な地域接続機能」があると想定

- スナバのスタッフが地域との接続点になっている
- スナバ自体が組織的なネットワークを持ち、地域とつながっている
- 地域とメンバーを結ぶ仕組み(コミュニティマネージャー的な役割)がある

キーワード:「組織的なつながり」「スタッフ主導の接続」



【調査結果】

実態は「スナバ全体(運営・メンバー)の個人のつながりを活かした関係性」による接続

- スタッフが直接的に機能や役割として地域をつなぐわけではない
- 組織的な連携は存在せず、個人のネットワークによるつながりが主
- 「誰が何を知っているか」をメンバー間で認識し、それを基に情報が共有されている
 - 例:「あの人が知っているんじゃないか」というつなぎ方

キーワード:「トランザクティブ・メモリー」「個人のネットワーク」

実現できるポイント

- 運営・メンバー双方が社会関係資本(Social Capital)を認識していること
- 塩尻の特定領域に限定されるのではなく、多様な分野や対象(行政、民間、地域等)とのつながりが活かされている、それができるチームの状態

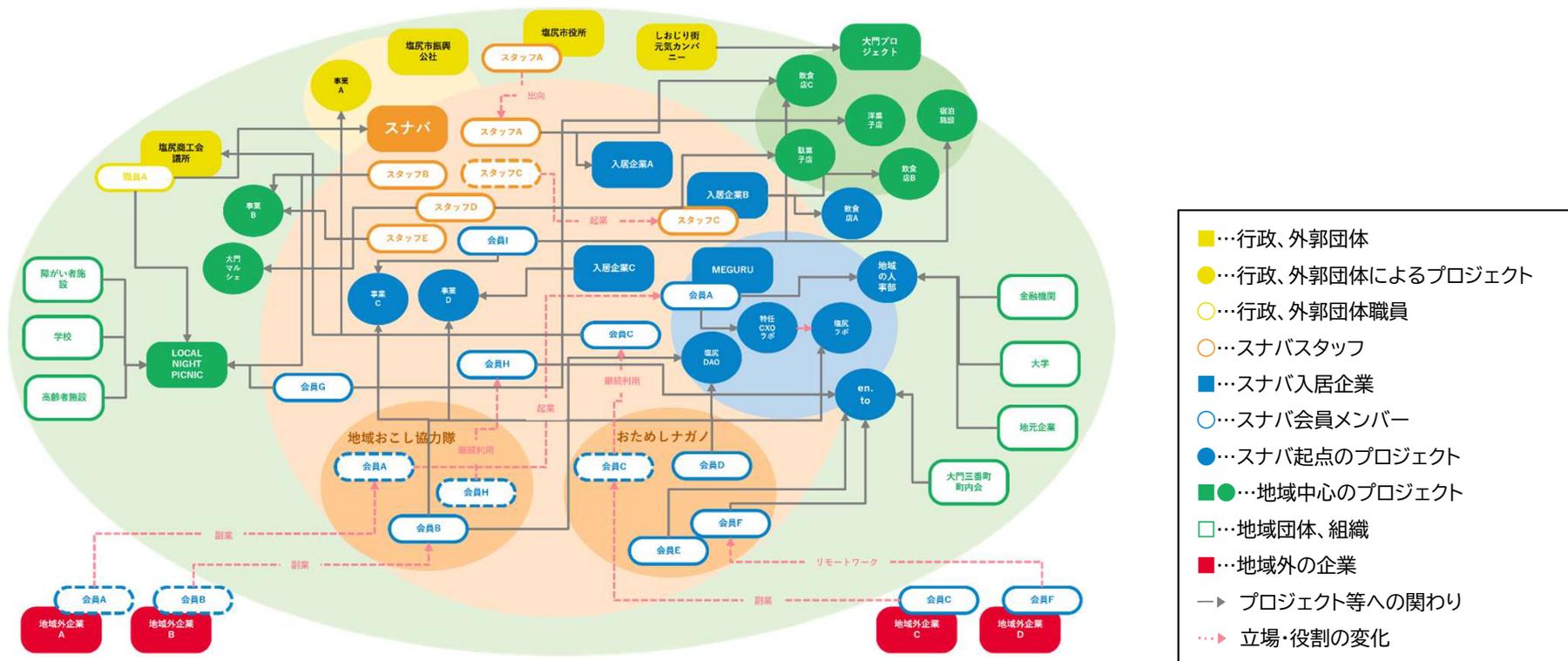
3 スナバを介した地域コミュニティとの接点

スナバメンバーがどのように地域コミュニティとの接点を活かし事業を行っているか？

- ・地域にない新しい事業であり、地域に新しいコミュニティを生み出している(巻き込まれていく)
- ・さらには、連鎖的な経済活動によって、スナバ経済圏が生まれている。

<メンバー・プロジェクトと地域コミュニティとの接点調査特徴(抜粋)>

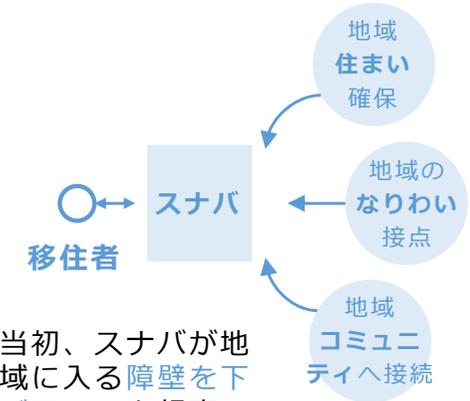
- ▶メンバーは複数のプロジェクトに入り、複数事業を兼務する
- ▶地域団体との協業や地域の他プレイヤーの関わり合いの中で事業ができています。
- ▶スナバスタッフもプレイヤーにもなる



調査結果まとめ

【当初仮説】

スナバは、コミュニティゲートウェイとして、移住者等の住まい・なりわい・コミュニティ獲得の、障壁を下げる役割を果たしているのではないか。



【調査結果】

スナバは、シビックイノベーターマインドの醸成と、鍛え上げをする。

結果として移住者の自らの思いを起点とした多様な『なりわい』が地域に生まれ、地域に新しいコミュニティを作り出しているという結果であった。

1 スナバを通じて移住/二地域居住に至るステップ

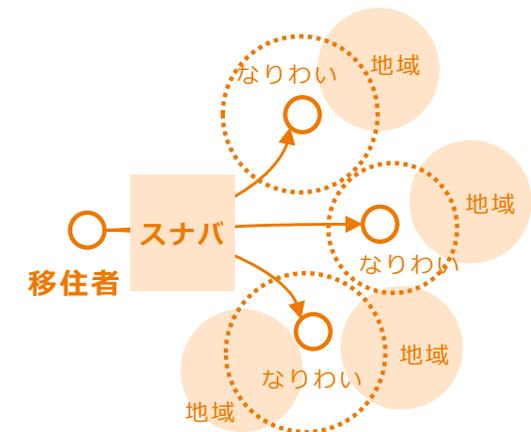
移住者等のナレッジを地域で活かし、シビックイノベーターマインドを深化させなりわいを生み出し、移住/二地域居住に至る

2 スナバが生み出すなりわいの実態

一人一人の課題や、欲求などを解決する事業であり、生活の質の向上や地域の課題を解決するような、多様なプロジェクトや事業

3 スナバを介した地域コミュニティとの接点

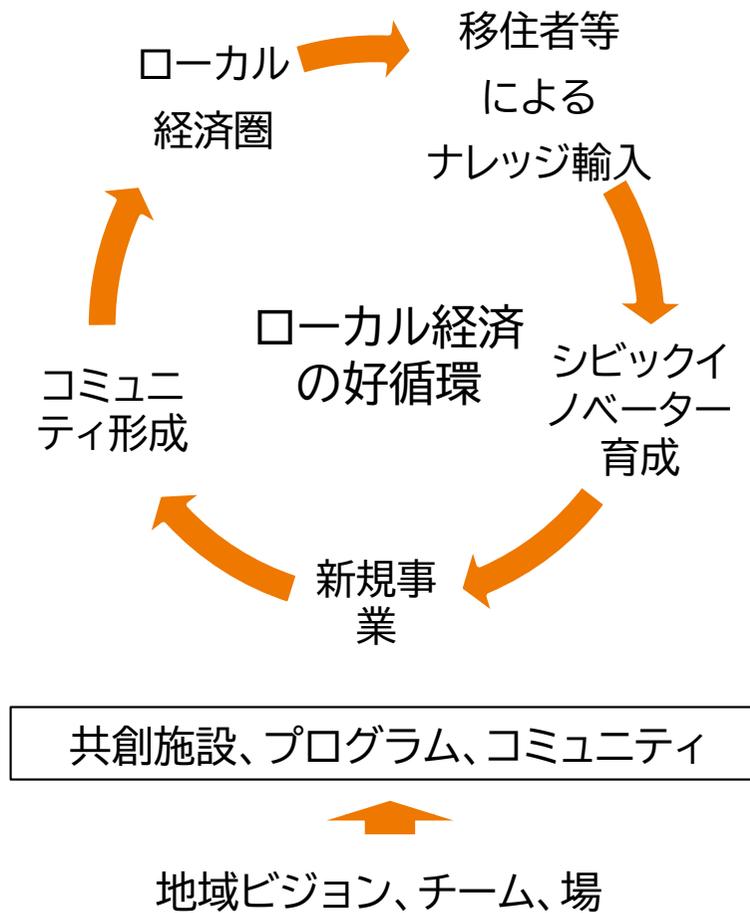
スナバコミュニティの社会関係資本が地域との接続を作り、なりわいが起点となり地域に染み出している



実態は、移住者等がシビックイノベーターとなり、地域で多様ななりわいを作りながら、地域に新たなコミュニティをも創出していた。

塩尻スナバモデル: ローカル経済圏の循環モデル

ローカルイノベーターによる経済の好循環



調査事業で得られた知見を展開：塩尻スナバモデルを全国展開

塩尻スナバモデルを全国にローカルイノベーター共創の場の展開を行います。
是非、展開にご興味のある自治体、民間、大学などお気軽にお声がけください！

<https://www.mitemo.co.jp/contact/cue@mitemo.co.jp>

今後の企画

令和7年3月12日：二地域居住モデル共有オンラインイベント開催

令和7年4月 or 5月：スナバ視察ツアー（企画中）

～先進地を視察し、自地域の二地域居住モデルを考えよう～

令和7年4月～：モデル形成ワークショップ（企画中）

モデル展開候補各地で実践

共感する地域で現地ワークショップ 全国5か所程度

1. 地域ビジョン形成
2. 地域調査（ヒアリング等で地域実情調査）
3. 共創拠点チームビルディング



3月12日開催：二地域居住モデル共有オンラインイベント開催

国交省「移住等の促進に向けた実証調査」二地域居住調査を読み解く

「塩尻市スナバモデル」に見る、
移住者を起点とした地域経済の好循環

▶ ONLINE 参加費無料

3.12(水) 15:00-16:30

登壇者

国土交通省 国土政策局
地方政策課 課長補佐

吉田 正嗣

一般財団法人塩尻市振興公社
地域振興事業部 事業部長

三枝 大祐

ミテモ株式会社
シニアプロデューサー

三井 実



https://www.mitemo.co.jp/event/duallife_250312/

開催(案)

日程：令和7年3月12日水曜日 15:00～16:30

予定プログラム：

1. 国交省様より日本の現状と二地域居住政策の紹介 (国交省様)
2. 塩尻市スナバの事例共有 (塩尻市スナバ)
3. 実証調査結果のシェア (ミテモ)
4. パネルディスカッション
 - ▶ パネル参加者：塩尻スナバメンバーを迎えてスナバトーク (3名程度の移住者を予定)
5. 今後の展開のご紹介 (ミテモ)
 - ▶ 二地域居住実践ワークショップのご案内

主催：ミテモ株式会社、塩尻市、塩尻市振興公社



ありがとうございました！



Heart of
Civic
Innovation
◎スナバ

